

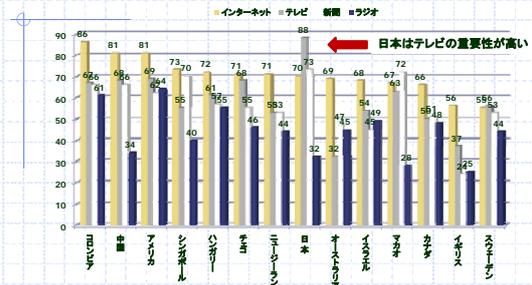
日本社会情報学会(JASI)特別企画
「ICTフォーラム2010」
(第122回JASI定例研究会)

メディアの現在を問う

パネリスト
遠藤 薫(学習院大学)
大山 泰(フジテレビジョン)
浜村寿紀(共同通信社)
藤代裕之(ガ島通信)

コーディネーター
木村忠正(東京大学)

情報源としてのメディアの重要性 (WIP2007-2008)



(※「ある程度重要」「非常に重要」と答えた人の割合(18歳以上のインターネット利用者のみ)
(日本以外のデータはWorld Internet Project: International Report 2009 をもとに三上俊治作成)

WIP (The World Internet Project)

- World Internet Project
 - 1999年 アメリカUCLA情報通信政策研究センター所長のJeffery Cole教授が主導して創設
 - 参加国:アメリカ、日本、中国、イギリス、スウェーデン、シンガポール、韓国、ドイツ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、ハンガリー、イタリア、チリ、コロンビア、チェコ、イスラエル、マカオなど28カ国(2008年11月現在)
- 2007-2008WIP国際データ比較
 - International Report 2009 :13カ国の国際比較データを収録(2007年実施調査の結果)
 - 東京大学大学院情報学環・21世紀COEプログラム「次世代ユビキタス情報社会基盤の形成」プロジェクト(拠点リーダー:坂村健)の一環として、WIP共通設問を用いた東京都民調査を実施(2008年10月~12月)
 - これらをもとに、日本を含めた14カ国の国際比較データを分析

インターネットと政治、行政との関係 (WIP国際比較)

	政治に対する市民の力の増大	政治の理解の進歩	行政サービスの向上
オーストラリア	37	52	26
アメリカ	31	56	22
中国	29	76	57
シンガポール	29	45	40
イギリス	29	33	21
カナダ	26	42	19
ニュージーランド	26	39	23
コロンビア	25	56	29
日本	23	25	17
イスラエル	22	37	26
チェコ	15	31	13
スウェーデン	12	23	10
ハンガリー	9	20	6

JWIP2010調査

- JWIP2010調査
 - 2010年1月15日~31日
 - 全国525サンプル、15~69歳男女
 - 訪問留置回収
 - 都市規模毎ランダム・ロケーション・クォータサンプリング
- 6月26日情報通信学会@早稲田から公表

行政へのオンラインでのアクセスの国際比較

country	%	country	%	country	%	country	%
Sweden	57	US	43	Spain	26	Great Britain	13
Norway	56	Netherlands	41	France	25	Turkey	13
Denmark	53	New Zealand	40	Germany	24	Malaysia	12
Singapore	53	Hong Kong	37	South Korea	23	Latvia	8
Faroe Islands	52	India	31	Italy	20	Lithuania	8
Finland	49	Estonia	31	Czech Republic	18	Poland	4
Canada	48	Taiwan	30	Slovak Republic	14	Hungary	3
Australia	46	Ireland	26	Japan	13		

Mellor, Wendy, and V. Parr (2002) 'Government online: An international perspective.' Taylor Nelson Sofres. <http://ec.europa.eu/idabc/servlets/Doc?id=23275>, accessed January 10, 2010.

ネット利用による接触機会の増減

	かなり減った	少し減った	変わらない	少し増えた	かなり増えた	そのような人はいない
趣味・娯楽が同じ人	0.2%	1.4%	29.0%	16.5%	5.4%	47.5%
同じような政治的関心をもつ人		0.2%	25.3%	1.1%	0.5%	72.9%

インターネットによる人と接触したり連絡したりする機会の増減 (JWIP2010)

7

メディア評価 (WIP2010) 分析のまとめ(1)

- テレビの情報信頼性に関しては、30代以下と40代以上で分かれる。
- すべての年代で、テレビは、情報信頼割合、情報源・娯楽手段重要度、いずれにおいても、インターネットをいまだ上回っている。
- インターネットの情報源重要度、娯楽手段重要度は、10代、20代で高く、その後、30代以降では年代とともに顕著に低くなる。
- 新聞の情報源重要度は、40代以上で高く、30代以降、年代が下がるにつれて低くなる。
- 新聞、ラジオの娯楽手段重要度、ラジオの情報源重要度は、10代・20代、30代・40代、50代・60代と3つに大きく区分され、年代が下がる毎に低くなる。
- 人からの話の娯楽手段重要度は、20代がピークで、その前後では下がっていく。

10

メディア評価 (WIP2010)

		インターネット	テレビ	新聞	ラジオ	人からの話
信頼できる情報の割合	まったくない	5.9%	1.1%	1.7%	4.0%	1.3%
	一部	23.0%	15.6%	10.3%	12.4%	21.9%
	半々くらい	48.4%	33.5%	18.9%	36.0%	52.0%
	大部分	21.5%	45.3%	58.1%	42.9%	23.8%
	全部	1.1%	4.4%	11.0%	4.8%	1.0%
信頼情報割合		2.89	3.36	3.66	3.32	3.01
情報を得る手段としての重要度	まったく重要ではない	13.1%	1.3%	2.9%	14.9%	1.9%
	あまり重要ではない	21.9%	10.7%	8.4%	29.7%	19.4%
	ある程度重要である	47.0%	58.9%	51.8%	45.5%	64.6%
	非常に重要である	17.9%	29.1%	37.0%	9.9%	14.1%
	情報源重要度	2.70	3.16	3.23	2.50	2.91
娯楽手段としての重要度	まったく重要ではない	18.1%	2.5%	9.0%	18.5%	1.7%
	あまり重要ではない	25.1%	11.4%	33.3%	40.4%	17.5%
	ある程度重要である	40.2%	52.6%	47.6%	37.0%	59.8%
	非常に重要である	16.6%	33.5%	10.1%	4.2%	21.0%
	娯楽手段重要度	2.55	3.17	2.59	2.27	3.00

8

メディア評価 (WIP2010) 分析のまとめ(2)

- インターネット、新聞、ラジオに関しては、情報源・娯楽手段重要度とも、年代によって大きく認識が異なる。
- 10代・20代ではインターネットの重要度が高まり
- 30代が転換期(情報源としては新聞の重要性が高いが、娯楽手段としてはインターネットの重要性が高い)
- 40代以上では年代を追う毎にネットの重要性が下がり、新聞がメディアとしての重要性を保っている。

11

メディア評価と年代 (WIP2010)

		10代	20代	30代	40代	50代	60代
情報信頼割合	インターネット	2.69	2.94	3.02	3.02	2.91	2.63
	テレビ*	3.29	3.27	3.22	3.46	3.46	3.43
	新聞	3.49	3.55	3.58	3.74	3.78	3.72
	ラジオ	2.97	3.13	3.27	3.43	3.45	3.41
	人からの話	3.00	2.99	3.03	2.98	3.13	2.93
情報源重要度	インターネット*	3.03	3.10	2.95	2.75	2.57	2.05
	テレビ	3.20	3.08	3.08	3.27	3.22	3.12
	新聞*	2.77	3.02	3.14	3.39	3.43	3.30
	ラジオ*	2.11	2.07	2.50	2.61	2.70	2.71
	人からの話	2.80	2.99	2.96	2.88	2.98	2.77
娯楽手段重要度	インターネット*	2.97	3.14	2.85	2.47	2.34	1.87
	テレビ	3.17	3.28	3.12	3.05	3.23	3.20
	新聞*	1.94	2.08	2.63	2.62	2.88	2.86
	ラジオ*	1.74	1.98	2.22	2.22	2.55	2.51
	人からの話*	2.94	3.25	3.09	2.95	2.92	2.84

* 情報信頼割合、情報源重要度、娯楽手段重要度を目的変数、性別、年代、教育歴、世帯年収、インターネット利用分類(PCネット、Mネット)を説明変数とし、ロジスティック回帰分析を行い、年代が有意な項目

9

メディア利用時間とメディア評価(1)

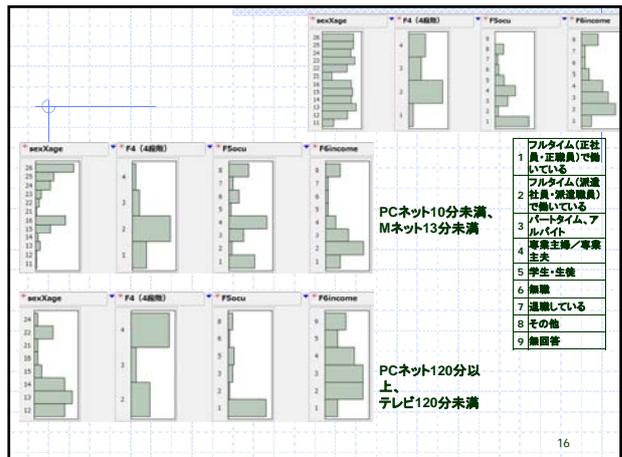
- テレビの利用は、テレビ、新聞、ラジオというマスメディアの情報に関して、信頼情報割合の認識を正に強めている。
- 対照的に、PCネットの利用は、テレビ、新聞、ラジオというマスメディアの情報に関して、信頼情報割合の認識を負に強めている。
- つまり、テレビに長時間接するほど、マスメディアの情報を信頼できるものと捉えるのに対し、PCネットを長時間利用するほど、マスメディアの情報に対してネガティブ。
- テレビとPCネットは、情報源重要度、娯楽手段重要度の認識に関してもまた対照的。つまり、テレビ利用時間が長いほど、インターネットの重要度は低く、テレビの重要度が高まるのに対して、PCネット利用時間が長いほど、インターネットの重要度は高く、テレビさらには、新聞、ラジオというマスメディアの重要度は低くなる。

12

メディア利用時間とメディア評価(2)

- MネットもPCネットと同様の傾向があるが、テレビに関しては、PCネットほど強くない。むしろ、Mネットは新聞と対照的である。
- つまり、新聞の利用時間が長いと、インターネットの情報源、娯楽手段重要度は下がり、新聞、ラジオの重要度は高くなるのに対して、Mネット利用時間が長くと、インターネットの重要度が高まるのに対して、新聞、ラジオの重要度は下がる。
- 以上のことから、PCネット利用は、テレビと代替関係にあり、Mネット利用は新聞と代替関係にあることが伺える。
- ラジオの利用時間は、インターネット、テレビの評価と負の相関、新聞の評価と無相関にあり、かなり独立したメディア利用となっていることが伺える。

13



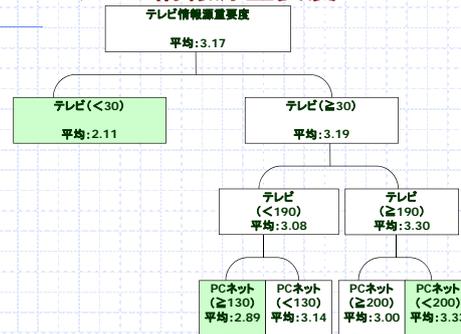
16

メディア利用類型

- テレビの力は未だ強いが、年代毎にどのメディアを主要な情報源、娯楽手段とするかが大きく異なっている。
- 各メディア利用時間によるメディア認識の差異から、いくつかのグループを区別することが可能
 - マスメディアに依存するテレビ派
 - マスメディアに批判的でインターネットに依存するPCネット派
 - 新聞、ラジオに依存せず、テレビには比較的依存するMネット派
 - 新聞、ラジオを評価するオールドメディア派
 - ラジオ中心に情報を摂取するラジオ派

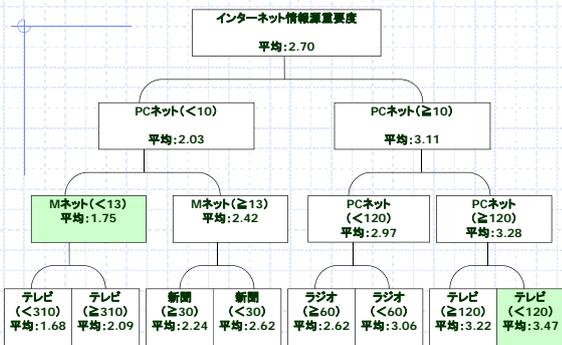
14

パーティション分析結果(2) テレビ情報源重要度

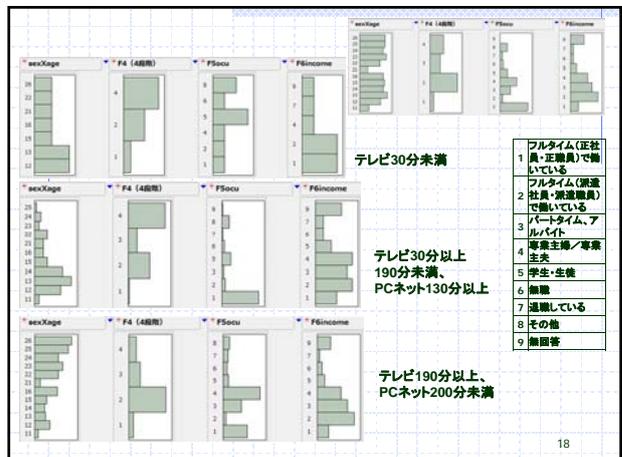


17

パーティション分析結果(1) インターネット情報源重要度

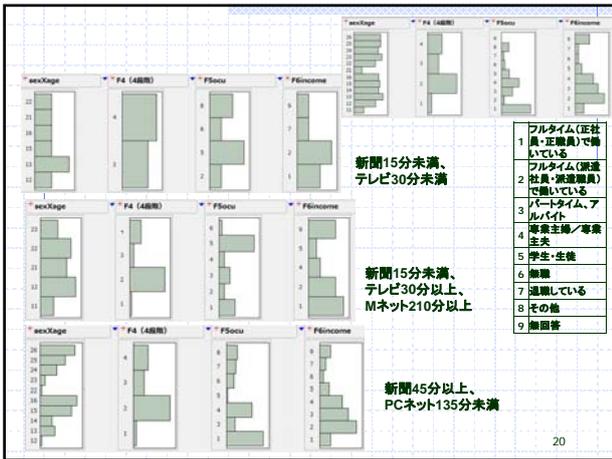
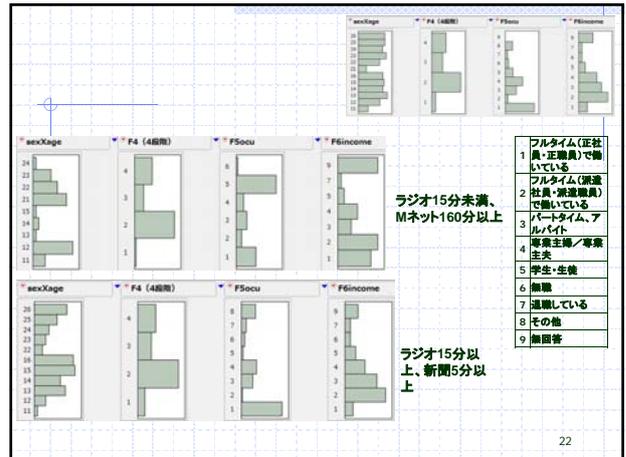
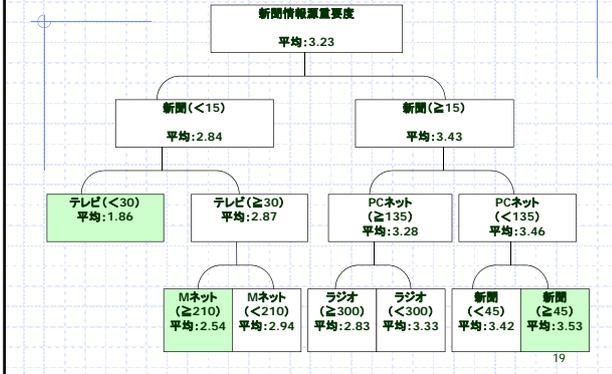


15



18

パーティション分析結果(3) 新聞情報源重要度



パーティション分析結果(4) ラジオ情報源重要度

